

集合住宅における「幸せ時間」

家族それぞれの
“いどころ” “じどころ” のある
ファミリースイート

パソコン作業や書き物ができる“ホームステーション”を
設けた「グランドメゾン上町一丁目タワー（大阪府）」の
LDK。腰高のテレビボードでくつろぎ空間とゆるやかに仕
切っており、ほどよい囲まれ感があります。

みんなでおしゃべりして笑ったりふざけ合ったり
家族での回らんのひときは楽しいもの。
でも、おうち時間にはいろんなシーンがあって
一人ひとり別々の過ごし方をすることもありますね。
ゆっくり読書をして自分の好きな世界観にひたる。
仕事や勉強に集中して取り組む。
ストレッチやヨガなどでリフレッシュする。
一緒にいながらも、それぞれが好きなことをしていただいていい。
ただ気配を感じられるというだけで、どこか安心する。
それが家族というものなのかもしれません。
では、家族一人ひとりが幸せを感じられる住まいとは、
どのようなものなのでしょうか。
今回は積水ハウスが提案している自由に使える大空間
「ファミリースイート」を取り上げながら、
集合住宅における「幸せ時間」について考察してみました。

安全・安心・快適は、今では当たり前。もう一歩踏み込んで「幸せ」を追求しています。

(沢辺)

家族の幸せな大空間 ファミリースイート

家で過ごす時間が長くなった今、住環境や暮らし方について見直されている方も多いでしょう。今回は「幸せ時間」をテーマにして、住まいづくりについて考えていきたいと思えます。「私の所属する住生活研究所では2018年から「幸せ」の研究に取り組んでいます。積水ハウスでは長年にわたって安全・安心・快適な住まいづくりの研究をしてきましたが、それが当たり前のものとして提供できるように。なった今、もう一歩踏み込んで「幸せ」を追求していこうと考えたのです」(沢辺)



ご主人の「いどころ」をイメージして、窓際にディスプレイ収納とリラックステアを配したLDK。家族と同じ空間にしながら、自分らしくつづげます。(GM上町一丁目タワー/大阪府)

「が、あらためて「研究」として取り組んだことで、新たな気づきもあり、提案に広がりが出てきました」(辻岡)

「幸せ」というと、定義するのが難しいような印象も受けますね。

「まず、どんな「幸せ」があるだろうかと考え、つながり/すこやか/楽しさ/私らしさ/生きがいという5つのキーワードを導き出しました。そうした幸福感を高める住まいを追求してたどり着いた答えのつが、仕切りのない大空間で家族それぞれが自由に好きなことができる「ファミリースイートです」(沢辺)

「大空間というのが一つのポイントですね。単に面積が広いということではなく、従来のLDKの考え方から脱却して自由な発想で使える広々とした空間を目指しています」(神吉)



広々LDKの気持ちよさはそのままに、床を一段下げることで空間にメリハリをつけたピットリビング。段差に腰掛けたり背もたれにしたり、思い思いの姿勢でくつろげます。(GM桜山スタイル/愛知県)

「LDKというと、家族がくつろぐリビング、食事をするダイニング、調理をするキッチン、それぞれの役割が明確に決まっているような気がしてしまうんですね」(辻岡)

「でも入居後のお宅に伺うと、リビングで食事をされている方もいらっしゃいますね。そこにテレビがあるからとか、座卓スタイルのくつろいだ環境で食事をしたといったさまざまな理由があるようです」(高橋)

「そう、好きに暮らしていきたいと思います。従来はLDKに分けて考えていたものを自由な発想で使える柱のないひとつながりの大空間と捉え、ファミリースイートと名付けました」(沢辺)

「たとえば最初はご夫婦二人でゆとりの大空



夜景を一望できるコーナーにローテーブルと椅子を置けば、大人のくつろぎエリアに。さまざまなスタイルで腰掛けられるようにすると、自分の居場所を見つけやすくなります。(GM御園座タワー/愛知県)

固定概念にとらわれずに使える「余白」をマンション選びの基準の一つに。

(辻岡)

「か、宿題をしているとか、一緒にいながらもそれぞれの時間がある。家族で同じことをするのは限らないんです」(沢辺)

「同じ空間にいて家族とつながりを持ちながら、適度な距離感を保って思い思いの時間を楽しめる。そうした幸せな時間を過ごせる場が、これからの住まいに求められているのだと考えています」(辻岡)

自由に使える「余白」が わが家の暮らしにフィット

LDKを二つの大空間として考えるというのは、グランドメゾン(以下、GM)では以前から取り組んでいたのではないのでしょうか。「そうですね。マンションでは限られた面積を



自在に開閉できるスライディングウォールで、フレキシブルな住まいに。数枚だけ開けてLDKとのつながりを保ちながら「いどころ」をつくることもできます。(GM品川シーサイドの社/東京都)



キッチンの並びにデスクコーナーがあると、在宅ワークの合間にちょっとしたすき間家事ができます。また学習スペースとして使えば、料理中にも子どもが勉強する様子を見られるので安心です。(GM上町一丁目タワー/大阪府)



家族で使える書斎スペースを設けたワンルームLDK。オープンキッチンは視界が開け、空間の一体感が高まります。(GMガーデンシティ小倉/福岡県)



有効に活用するために、早くからLDKを二つの空間にしたプランを提案しており、ノウハウも蓄積されています」(辻岡)

「たとえばキッチンをオープンにするだけでも、空間の体感が生まれてとても広く感じられます。オープンキッチンは家族みんな調理や後片付けをするときにも使い勝手が良いので、家事の分担がしやすく、子どもの教育にもいいんですよ。また、横に並んで作業をしながら話をすると、向き合っているときとはまた違うコミュニケーションのとり方ができます」(沢辺)

「家族の暮らしをイメージすることは大切ですよ。一般的に、マンション選びの基準は立地と、価格や床面積、何LDKといった数字で比較されることが多いんです。もちろんそ

うした条件も重要な要素ですが、GMでは以前から暮らし方や生活の提案というソフト面の大切さもお伝えしてきました」(高橋)

「住まいの心地よさって、数字だけを見ても分からないものなんです。実際にいろんなモデルルームを訪れてみると、同じような床面積であっても、広々と感じるものとそうでもないものがあることに気づくでしょう。たとえば窓が大きいと開放感がありますし、柱や梁などの凹凸を少なくするとのびやかな空間になります。また、凹凸がないと家具のレイアウトもしやすく、すっきりとした印象に。床面積は目安にはなりますが、住み心地とイコールではないんです」(神吉)

「また、部屋数を重視される方は、いずれ子ども部屋にと想定されているんじゃないでしょうか。でも、幼いうちはほとんどの時間をLDKで過ごし、夜は主寝室で「両親と」一緒に眠ることが多いので、個室が本当に必要になるのは何年も先だったりするんです」(沢辺)

「それもあって、最近は可動間仕切りを開放すれば隣接する部屋とLDKをつなげられるプランが人気です。子どもが小さいときには広く使って、個室が必要になったら仕切るといった使い方ができます」(高橋)

「可動間仕切りを活用するほか、ちょっとした独立感が欲しい場合は家具を置いてゆるやかに仕切ることもできます。そうやって間取りを自由に捉えられるのは、大空間ならではのメリットと言えます。わが家では、あるとき子どもが「今日は窓際でごはんを食べたい」と言いだして、今では季節や気分に応じて好きなところで食事をするようになりました。固定概念がないから、素直に好きところで好きなことをする。自由な発想でファミリースイートをいちはばん使いこなせるのは、子どもなのかもしれない」(神吉)

「家族が集まれる大空間があると、暮らし方の可能性は大きく広がりますね。住まう人の自由な発想で住みこなしていける。余白は、これからのマンション選びの基準の一つになっていくのではないのでしょうか」(辻岡)

「まずは広い空間を間仕切りなどで臨機応変に使い、いよいよ個室が必要となればリフォームという選択肢もあります。マンションは構造がしっかりしているのでリフォームの自由度は高いんです。今小さく区切った部屋がある場合は、隣の空間とつながって広くすることも可能です。積水ハウスでは、そうしたご要望にグループ全体でお応えしています」(高橋)



talking member

| | |
|--|--|
| <p>● 沢辺泰代 住生活研究所/愛玩動物飼養管理士/在宅勤務中は愛犬とずっと一緒。お散歩も頻繁に行けて幸せな時間を過ごせました。また、おうち時間を快適に過ごせるようにと観葉植物を増やしたので、日々、その手入れを楽しんでいます。</p> | <p>● 神吉梨紗 大阪マンション事業部/設計室/一級建築士/休日は小学生の娘と幼稚園生の息子と一緒に公園で遊んだり、買い物に行ったりしています。近所にいろんな公園があるので、季節や気分によって行き先を変えて楽しんでいます。</p> |
| <p>● 辻岡亮亮 大阪マンション事業部/設計室/一級建築士/宅地建物取引士/最近健康のためにランニングをしています。陸上部だった中高生時代の走りはそうそう取り戻せませんが、新しいシューズでモチベーションが上がっています。</p> | <p>● 高橋伶央 大阪マンション事業部/分譲営業室/宅地建物取引士/趣味は御朱印集めで、そのために旅行に行くこともあります。平成から令和に元号が変わった日には、朝から2時間くらい並んで大阪天満宮の御朱印をもらいました。</p> |

バルコニーや個室、DENなど

LDK以外にも「いどころ」は広げられます。(高橋)

それぞれが心地いい プラスαの役割や機能

家族それぞれの居心地を高めるために、空間提案においては具体的にどのような工夫をしているのでしょうか。

「大空間にすることによって心地よい距離感で、いどころをつくる」とともに、LDKに新たな役割や機能を追加して、いどころを想定したプランをつくっています。たとえばワークスペース、子どもの遊び場・学び場、趣味コーナー、ライブラリーのある暮らしなどをご提案しています(辻岡)

ワークスペースというと、最近では在宅勤務の機会も増えていますが、皆さんも在宅勤務をされていたのでしょうか？



テレビボードと一体になったデスクコーナー。机に向かいながらリモコンやキッチンにいる家族とコミュニケーションをとりやすいスタイルです。(GM上町台レジデンスタワー/大阪府)



3人が並べるデスクコーナー。引き出しもあるので筆記用具などをすっきり片付けられます。親子やきょうだいで一緒に机に向かえば、刺激し合って宿題もはかどりそうです。(GM桐林町/愛知県)



「私はダイニングテーブルをよく活用していました。ある程度の広さがあったり資料を広げやすく、椅子に座って作業できるので、使いやすかったです。理想を言えば、ダイニングとは別にデスクコーナーがあると資料を広げたい。家計簿や幼稚園の連絡帳を書くのに使ったり、子どもの学習スペースにしたり、みんなで共有できる場にもいいと思います(神吉)」

「新しい発見だったのは、作業によって場所を変えることで作業効率が上がるということです。固定席のないフリーアドレスのオフィスのような感じでしょうか。パソコンを持って家の中をあちこち移動していました(辻岡)」

「通常の在宅勤務であれば、昼間は子どもが学校に行っているんで、子ども部屋をワークスペースとしても使えるように設えるのいいですね(沢辺)」



子ども部屋を想定した約5.3畳の洋室。細長い空間にすることで、勉強机やベッドといった細長い家具を効率よく配置でき、居心地のいい空間になります。(GM上町一丁目タワー/大阪府)

最近では自宅で勉強するのではなく、リビング学習をする子どもも多いようです。

「個室やリビングなど複数の学び場があったり好きなところで勉強できるのも、いいんです。短時間なら、立ったまま勉強すると、集中できて効果的ということが当社の研究でも明らかになっています(沢辺)」

「うちの子どもは宿題もダイニングテーブルや窓際のちゃぶ台など好きなところで取り組んでいます。宿題をしながらもあれこれ質問してくるし、親のチェックが必要なものも結構あるので、夕飯の準備中も近くで勉強してくれるとコミュニケーションがとりやすく、お互いにはかかります(神吉)」

「子どもとの時間も大切だけれど、大人だって自分らしくリラックスするひときは欲しいですね。たとえば日常の雑事を忘れてお酒を楽しめる家飲みスペースを設けるのもいいんじゃないでしょうか(高橋)」

「いいですね。窓辺にテーブルと椅子を並べて落ち着いた照明にするだけでもバーのような空間を演出することができますよ(沢辺)」

「くつろぎ空間をバルコニーまで広げて、アウトドアリビングを楽しむのも気持ちがいいですね。モデルルームをご案内しているときにも、バルコニーで食事をしたと夢を膨らませる方は多いです(高橋)」

「朝や昼間はもちろん、ちょっと気分を変えて夜に外ごはんというのをおすすめです。そういうシーンをイメージして具体的なプランに落とし込んでいきます(辻岡)」

「ほかにもラウンジやライブラリーなど共有スペースがありますから、そういった場所も一つの「いどころ」にしてもおすすめです。マンション全体を活用して、暮らしの中で潤いを感じていただけたら嬉しいですね(神吉)」

住みこなすほどに愛着がわくのは、大空間を住まい手の自由に使えるから。(神吉)

暮らし方を決めるのは 間取りではなく住まう人

何かがあるからファミリースイートということではなく、自由に使える大空間がファミリースイートなんです。

「そうですね。家族とつながる幸せ、ヨガなどをしてすこやかでいられる幸せ、ワイワイ楽しく過ごせる幸せ、私らしくいられる幸せ、趣味に打ち込んで生きがいを感じる幸せ……家族一人ひとりがいろんな「幸せ時間」を叶える大空間がファミリースイートだと考えています(沢辺)」

「私たちは長年、ユニバーサルデザインなど細やかな研究と配慮を積み重ねて住まいをつくるしてきました。そういう実績を重ねてきた



LDKの一角に設けた書斎。圧迫感のないガラスのコーナー仕切りはアイアン調のブラックフレームがスタイリッシュで、「魅せる書斎」となっています。(GM目黒東山パークフロント/東京都)



ウチとソトの一体感があるLDK。バルコニー、リビング、ダイニング、小上がり和室と、さまざまな「いどころ」があり、気分に合わせて好きなところで「じぶん時間」を過ごせます。(GM川名ウエストレジデンス/愛知県)



奥行き3mあるバルコニーはホームパーティのメインステージにもなります。夜空を眺めながら食べる料理やお酒は格別。会話ははずみ、素敵なパーティになりそうです。(パークフロント香椎照葉/福岡県)



読書をしたりパソコンで仕事をしたり、書斎や図書館のような感覚で利用できるライブラリー。共用スペースにもお気に入りの「いどころ」を見つけられるのは、マンションならではの魅力です。(GM狛江/東京都)

「住まい手視点で家族の「いどころ」や「いどころ」をリアルに想像しながら空間をつくることで、モデルルームのインテリア一つひとつもプロとしての考えがあつてご提案しています。とはいえライフスタイルは多種多様ですから、好みに応じてカスタマイズしていくことも大切ですね(神吉)」

「さまざまな家族のカタチや暮らし方に対応できるメニュープランを豊富に用意していることが大事なんだと考えています。自分らしい住まいを……と言っても、から考えるのは意外と難しいもの。しかし、いくつかのプランの中から選ぶのならイメージもしやすく、共



感できるプランを発見したら夢が広がると思います(高橋)」

「メニュープランを選んだり、さらにアレンジを加えたり、能動的に住まいづくりにかかわることは、わが家への愛着も育みます。そして、時を経て家族の暮らし方が変わっていくのも「住みこなす」ことができるのが理想的な住まいではないでしょうか。私は昔ながらの純日本家屋で育ったのですが、大勢の人が集まるときには襖を取り外して大空間として使い、部屋の中でもちょっと仕切りたいときには衝立を使うなど、空間を自在に使っていました。その感覚に近いのかな、とも思います(神吉)」

「そうですね。つの大空間をさまざまな用途

「自分たちらしく住みこなしながら愛着を持って暮らし続けられてこそ、本当に「幸せな住まい」になるのだと考えています。これからも、楽しく幸せな毎日が続く住まいをご提案していきたいです(辻岡)」

*

「家族の成長やライフスタイルの変化、暮らしのシーンに合わせて自由な発想で住みこなしていく。そんな多用途に使える大空間があれば、住まいへの愛着がより一層深まり、いつもの何気ない暮らしがとても豊かなものになるのではないのでしょうか。」